

## ☆教区「公聴会」開催される

去る七月十一日午後一時半より、中戸総務ら一行が出向のもと、約九十名参加のなかで「公聴会」が開催された。今回は「伝灯奉告法要」「熊本地震被害状況」「平和に関する論点整理」「宗門財政」「第10回宗勢基本調査」についての説明がなされ、次いでそれに関する質疑応答がなされた。

参加者からは「平和に関する論点整理」や「財政」についての質問があり、所管の栄俊英寺院活動支援部長や坂原英見総合研究室研究員から応答がなされた。最後に中戸康雄総務からまとめの挨拶がなされ午後四時に閉会した。

## ☆福島県飯館村の子供たちが

### お寺でホームステイ

今回で五回目となる高岡教区ホームステイ事業が、八月六日より三泊四日の日程で実施された。原発災害で避難生活が続く福島県飯館村吉倉宿舎から、子供十八名を含む総勢二十九名、七家族のメンバーが来県、教区内の七ヶ寺に分宿、暫し富山の自然に触れ、またホストファミリーとの交流を深めた。

六日早朝、福島市を出発した一行は七時間の移動を経て西本願寺高岡会館に到着、礼拝堂での交流会では、一年ぶりに会うホストファミリーや教区のスタッフとの再会を喜んだ。

また、今回は初の試みで五箇山の自然のなかで二日間を過ごすそうと、八日朝には南砺市の『合掌の里』に集合。世界遺産の「菅沼集落」を散策し、観光を楽しんだ。また、午後からは「岩魚掴み」に挑戦、水着に着替え池に放流された岩魚を追って、子供たちの熱狂



した声が山々に響きわたった。その後、捕まえた岩魚はスタッフの指導のもと、子供たち自身がさばき串焼きに。最初は恐る恐る包丁を動かしていた子供たちも真剣な表情で岩魚をさばいていた。夕食のバーベキューやキャンプファイヤーの最中、二度の大雨に見舞われるアクシデントがあったものの、宿舎の合掌造りのなかでは深夜までお酒を酌み交わし、飯館村の現状や富山移民の話

など語り合いが続けられた。原発事故から六年目に入り、既に吉倉宿舎を出られ新たな生活に入った方々も多くなるなかで、このホームステイ事業も飯館村の皆さんにとつてこれまでと違う特別な意味合いで受けとめられていることを伺わせた。

翌九日朝、バスに乗り込む一行に別れを惜しみ泣きだす子供もいるなか、お互いの再会を誓い手を振りあつて帰路に就かれた。

企画運営を行った教区災害救援専門委員会では、「一時は開催も危ぶまれた今回のホームステイだが、吉倉の皆さんの希望によつて実施できたことは本当によかった。今月には原発被害と真宗移民の歴史をテーマにした映画『土徳流離』の上映も行うが、飯館村への支援と交流を深めるため今後も協議を続けたい」としている。



### ☆中央教修了者のつどいが開催される

去る七月二十三日（土）西本願寺高岡会館に於いて中央教修了者のつどいが開催され、三十七名の門徒推進員が参加し、学びを深めた。

今回の研修テーマは「私たちと神棚・神社との関係を考える」

浄土真宗の門徒といえど、家には神棚があり、初詣や厄払いなど神社に参詣することが当たり前となつている中で、触れることがタブー視されてきたこのテーマを、教えに生きる門徒推進員として改めて考えてみよう」と企画されたもの。

初めに松林郁夫さん（氷見組門徒推進員世話役）が問題提起され、「以前はどちらかというと神社にお参りすることの方が多く、仏壇はあまりお参りしてなかったし、基本的には神頼みだった」「しかし、連研を受け門徒推進員になつたころから抛りどころとするのは真宗である、と思うようになり、以来神社にお参りに行くことは無くなった。」「神社に関しては地域の付き合いや当番があるので、義理として維持費などの協力はさせていたが、私が帰依しているのはあくまで浄土真宗の教えです」と提起された。それを受けた話し合い法座では、

「寺も神社もどちらも大事、無理に区別する必要がないのではないか。」

「神社を無視するような態度をとれば村八分にされる、周囲との摩擦を避けるため、おつきあいはしなければならぬ」

「神社はお願い事をするところ、お寺は心の安らぎを得るためのところ、と使い分けている」

といった意見が報告され、地域社会の中での同調圧力を指摘する意見や、必要な「お付き合い」とする多くみられた。また、「親鸞聖人の神祇不拝とはどういう意味なのか？」の質問があった。

講師による助言では吉井教潤さん（新湊組組主幹 西照寺住職）が、仏教と神道は全く性質を異にする教えであるとし、老病死を見つめ、いのちをいかに生きるかをテーマとする仏教に対し、神道では死や病気は穢れでしかなく、遠ざける対象ではない、という思

想的な違いを挙げ、また、神道は元来古代日本の祭政一致による神を頂点としたピラミッド型の階級社会を維持するための思想であり、国家神道がその典例であるように、時の権力者の統治の手段として利用されてきたと指摘。「村の中で神社を無視するような態度をとれば村八分にされる」というような恐れや同調圧力は、人々の安寧ではなく、「集団を管理・維持する」ことが目的であった神道が本来持っている性質であると指摘された。また、親鸞聖人の「神祇不拝」については、「神を否定するということではなく、拝まない、あくまで抛り所とするのは阿弥陀如来の教えであり、神祇に頼らない」という意味であるとした。そしてその「神祇不拝」という姿勢こそが、当時の神を頂点とした階級社会を否定するものであったがために、弾圧を受けたのだと述べられた。

また、仏を神と同じものとして扱うということは仏を海外から入ってきた神の一種としてみなしているのと同義であり、「使い分け」というのは神と仏を天秤にかけ無自覚の内に自分の願望のための道具化しているに過ぎないのでは、と提起され、自分は何を抛り抛りにし「帰依」していくのかを明確にしていくことが大切であるとした。

### ◇仏教壮年育成研修会開催される

去る七月二十四日（日）午前十時より西本願寺高岡会館で教区仏教連盟主催の仏教壮年育成研修会が開催され、三十一名の参加があった。本研修会のテーマは、『改めて、浄土真宗』と設定し、学びを深めた。午前中の研修「正信偈く仏事・作法」では、高岡教区勤式指導員補佐の畠山導師を講師にお迎えし、正信偈の内容を深め、お勤めを再確認した。まず、講師による正信偈の成り立ちや意味の説明ののち、全員で拍をとって正信偈をお勤めした。最後に参加者全員でお焼香を実際にし、ご講師より注意点等の説明があった。参加者よりは葬儀の折の焼香後、導師に対して礼はするのかとの質問があり、作法としてはそこまで決めていない。また、法事のときの蠟燭の色についての質問等がなされた。

れ、白・赤の蠟燭を使われると思うが、所属のお寺さんと相談して使ってほしいとのことであった。

また、午後からの研修Ⅱでは、第七回第2連区（中部・北陸）富山大会のスローガン「結ぶ絆から、広がるご縁へ」テーマ「『ともに』いのち かがやく世界へ」を深めることを目的とした。テーマを「家族のきずな・いのちの大切さ」に設定し、NHKの「あの人に会いたい」（ハンセン病回復者）のビデオ鑑賞をした後、班別にて話し合いを行い、全体会で発表を行った。各班の発表では、命の大切さ、家族とのつながり、時間の持ち方を考えるよい機会となった。浄土真宗のみ教えを後世に伝えるために家族と過ごす時間の中で、浄土真宗のことを話し合いたいとの意見があった。最後に西岡孝了教務所長のまとめがあり研修会は終了した。



☆『全戦没者を悼み平和を願うつどい二〇一六』開催

八月五日（金）午後六時半から、『全戦没者を悼み平和を願うつどい二〇一六』が、西本願寺高岡会館礼拝堂で開催された。テーマは「政治と宗教のかかわり」―念仏者のあり方を考える―。約一〇〇名の参加者と共に、西岡孝了教務所長の調声のもと、第三・第四ブロック代表者（砺波・糸岡・若神・川上・氷見・氷見東・氷見西組）の出勤をいただき、第一部『全戦没者追悼法要』が勤修された。

第二部の『平和を願うつどい』では、パネルディスカッションが行われ、大谷派富山教区永崎暁さん、大谷派高岡教区菊池正人さん、



本願寺派富山教区藤井慶輝さん、本願寺派高岡教区公文名真さんの四名のパネリストの方々が「政治と宗教のかかわり」について話をされ、藤井さんからは、明治から太平洋戦争までの状況を説明され、ご自身が戦中に体験された経験から、「侵略戦争はするべきではない」と強く述べられた。次に、永崎さんは、明治に寺院がほぼすべて壊される廃仏毀釈によって被害を受けた富山市の状況を説明され、「当時の政治との距離感を図る中で、これからの私たちは信仰をいかに大事にしていくか」と述べられた。菊池さんからは、大谷派の歴代法主が出されたご消息の問題性や、大谷派宗会の非戦決議を紹介する中、「戦争を加担してきた教団の一員として、ご門徒

に謝罪をしていかなければならない」と言われた。公文名さんは、「戦時中は本願寺派も大谷派と同じ状況」と話され、「支配層（政治家）に意義を申し立てすることは、とんでもない人達がすることであるというが、実際は政府と反動的な言動だけが問題にされ、協力的なことについては誰も問題にしていない」と述べられた。

続いて、『平和のために戦争の準備をしていくという考え方について』これからの私たちがするべきことは？ということについて意見が交わされ、「自ら学び何が正しいかを考えていく」「仏教者として非戦の立場を遵守していく」「過去に日本国憲法を作った人の願いや未来に何を残していくのかを考えていく」「権力を持つと維持するためあらゆる手段を講じていくので、権力者に対して私たちが厳しい目で見えていかなければならない」等の意見が出された。最後に、パネルディスカッションの司会をされた岡西法英さんから、「私たちの後に生きる人達に対して、大きな責任を負っていることを念頭においての決断をしていかなければならない」と述べられ、つどいが終了した。参加者からは、「県内の教区・宗派を超えての開催がとても良かった」「仏教者としての政治の関わり方の歴史を知ることができて良かった」等の声があった。教区委員会は次年度も引き続き開催をしていく予定である。

「非戦・平和を学ぶ」公開学習会について  
「100年の歩みに学ぶ」

8月29日（月）午後7時～9時

4回目 自由討論と第1～3章までのまとめ

発表者；津山 玄亮氏（ヤスクニ問題専門委員）

会場；西本願寺高岡会館礼拝堂

（高岡市東上関446 ☎0766-22-0887）

参加費；無料（事前の申込みは不要です。当日お越しく下さい）

※テキストにつきましては、「100年の歩み」と発表者が作成した資料で学習を進めてまいります。

## ◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

第一回「御同朋の社会をめざす運動」中央委員会報告

七月二十七日、伝道本部二階研修室において、二〇一六年度の第一回中央委員会が開催されました。

中央委員会は、宗務機関、宗門関係団体、教区・特区委員会を代表する五十名以内の委員で組織され、実践運動の総合計画及び年度ごとの重点プロジェクト推進計画を含む実践運動全体の成果を点検・総括し、また、「意見具申」及び一般社会の諸課題について協議することが主な所掌事項とされています。

はじめに、「平成28年熊本地震」にかかる宗派の対応について、宗門総合振興計画、並びに伝灯奉告法要について、実践運動・重点プロジェクトの説明と推進状況について報告があり、続いて、実践運動・重点プロジェクトの今後の推進、「意見具申」について協議がなされました。

委員からは、「宗門総合振興計画推進にかかる懇志の依頼や使途について、宗門として、門徒の理解を得るための方策を考えているのか」、「運動の成果を研修会への講師派遣回数や冊子『ごえん』の発行部数ではかるのは運動の形骸化ではないか」、「宗門総合振興計画と実践運動の相関関係が見えない」等の意見が出されました。それぞれの意見や質問への回答は各部署の部長の個人的見解に委ねられているようにも見受けられ、その姿勢からは、宗門中枢の無責任体質が垣間見えました。

今回、高岡教区から中央委員会に「意見具申」しました（高岡教区のみ）。その内容は、①「論点整理」に関する中間報告を受けての、今後の方策や取り組みに関するタイムスケジュールをお示しください。②先年の「安保健法」や現政権の「憲法改定」の動きに

対して、反対の意志を示す「総長声明」を早急に出して下さい、というものです（『教区報』7月号に全文掲載）。中央委員会の席上、「論点整理」には齟齬が多い」との当教区の指摘に対して説明を求められましたので、時間をかけて丁寧に補足しました。

この「意見具申」に対して、総合研究所長からは、『論点整理』はあくまでも一人一人が平和への意識をもち、議論を深めていただくための材料であって、宗派の見解とは別のもの、「公聴会での意見を集約し、今年度中に何らかの形で報告する」との回答がありました。総長からは、「今回の『論点整理』の主眼は、予断と偏見を排しつつ、宗門内外のさまざまな意見を取りあげ、問題の所在を明らかにし、今後、宗門全体で平和に関する学びをいっそう深めることにある。宗門内においては、いまだ平和に対するコンセンサスがなされていない。この報告は宗派としての最終的な見解を示すものではない」とし、「批判は聞く。だが『総長声明（宗派声明）』を出すつもりはない」との回答がありました。

一人一人が平和に対する意識を高め、非戦平和への願いをかたちにしていくことは大切です。しかし、教団としてやるべきことはあるはず。かつての戦争加担の事実立ち、二度と戦争を繰り返さない教団になっていくことが運動の願いであったはず。すでに論点ははっきりしています。

中央委員会に出席して、教区・組・寺院の現場で一人一人が運動を推進しつつ、宗門中枢に対しても非戦平和や差別克服に向けての運動の展開を求め続けていくことが重要だとあらためて感じました。

【「御同朋の社会をめざす運動」教区委員会副委員長 林史樹】

◇これからの日程（7/20～8/21）◇

8月	教区・財団行事	教化団体・組行事
20		第3B まことの保育大学 講座（～21 砺波ロイヤル ホテル）
22	同朋運動推進者養成研修 会	
23	ヤスクニ委員会	北陸B 講員研修会（～24 金太郎温泉） いろは塾
24		仏婦寺女合同実践運動研 修会（～25 磯はなび） 長寿苑ビハラー
25	得度習礼講習会（～26） 福光教堂	北同推研修交流会
27		本山杯野球大会
28		射水組朝の法座（太閤山 セレミューズ井波）
29	宗務基本調査説明会 非戦平和学習会	
30	災害救援専門委員会	
31	僧研事前研修会	
9月		
1		第2B 少年指導研修会（～ 2 石川）
2	選挙管理委員会	仏婦組織教化委員会 ダーナバザー
3		
5		北陸藤の会
6	財務委員会・特別委員会 聖典セミナー	仏婦教材委員会
8	ビハラー研修会	連区仏壮連絡協議会（～ 9 東海）
9	僧侶研修会（第1回）	
10	僧侶研修会（第2回）	連区ビハラー研修会（～ 11 福井）
12		連区布教使研修会（～13 岐阜）
13		龍谷教学会議（富山） 関野組実践運動研修会
14	常例法座	ブロック組長会（～15 石 川） コーラス（昼）
16		
17	千鳥ヶ淵団参（東京）	
18	千鳥ヶ淵全戦没者追悼法 要（東京）	
21	財務委員会・特別委員会	

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・73.8kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25  
□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎8/27（土）：岡田 清子 氏

（滋賀県浄光寺若坊守）

「親しみやすいお寺に」

□8/28（日）：磯原 孝雄 氏

（高岡教区五位組光明寺）

◎9/3（土）：本多 隆朗 氏

（伝灯奉告法要行事本部長）

「未 定」

◎9/10（土）：本多 隆朗 氏

（伝灯奉告法要行事本部長）

「未 定」

□9/11（日）：未 定

（富山教区）

◎9/17（土）：本多 隆朗 氏

（伝灯奉告法要行事本部長）

「未 定」

【西本願寺高岡会館9月の常例法座】

ご講師： 遠山信教氏

（福井教区）

ご講題：『ご本願の教え』

午後1時20分頃からビデオ上映、2  
時からお正信偈六首引のお勤めです。ど  
うぞお誘いあわせてお参りください。